

医療福祉用繊維製品に関する要求事項調査

松岡敏生*, 新木隆史*

Investigation on Users' Needs of Textile Products for Welfare

Toshio MATSUOKA and Takashi SHINKI

Key words: Clothes for Welfare, AHP, Middle Users

1. はじめに

超高齢社会の到来とともに、さまざまな医療福祉用繊維製品が開発、販売されている。福祉用具市場が伸び悩む中、繊維製品を含むパーソナルケア関連分野では市場が伸びており(2007年度福祉用具産業の市場規模調査結果, 日本福祉用具・生活支援用具協会, http://www.jaspa.gr.jp/public/policy/report_outline2007.pdf), 今後も需要は見込まれる。また、高齢者施設等で聞き取り調査を行うと、繊維製品への関心は高く、さまざまなニーズが寄せられる。そこで、我々は新たな繊維製品の開発を行うための基礎調査として、中間ユーザーを対象に、病院、高齢者施設で用いられる衣類に関する調査を行ったので報告する。

2. 調査方法

福祉用具として、衣類等の繊維製品は、大分類として「日常生活用品」、その中の小分類として「衣類」または「ねまき」、「肌着・ウェア」等に分類される(例えば, <http://www.hcr.or.jp/>, 保健福祉広報協会)。また、福祉用具販売カタログでも衣類としては、「ねまき」、「肌着・ウェア」が数多く扱われている。そこで、本調査では、病院、高齢者施設で用いられる衣類として、寝衣を調査対象とした。

病院、高齢者施設で用いられる寝衣の調査手法として、AHP (Analytic Hierarchy Process, 階層分析法) を用いた¹⁾。AHP とは、意思決定法の 1 つで、

ある事柄についての意思決定を、問題(最終目的)、評価基準、代替案という 3 つの階層構造に分けて分析する。本調査における AHP では、最終目的は病院、高齢者施設用の寝衣類として、評価基準は、外観・デザイン、取り扱い性、生理的機能、医療衛生的機能、着脱性能、風合い・肌触り、耐久性の 7 基準とした。今回の調査では、代替案の評価は行わず、評価基準の重要度(重み付け)の設定までとした。これは、医療福祉現場での寝衣に対する要求事項を明らかにすることを目的とし、この評価結果を基に試作開発するためである。評価基準は、消費者品質要求項目²⁾及び被服材料の消費性能³⁾を参考に、寝衣という最終用途に対して要求される基準として抽

表 1 衣類の評価基準とその定義

評価基準	定義
外観・デザイン	色や形, デザインなどに関すること
取り扱い性	洗濯やアイロンの取り扱い, 保管するときの取り扱いなど
生理的機能	保温性, 通気性, 吸水性など体温調節や熱・水分の移動に関すること
医療衛生的機能	抗菌性や防臭性など
着脱性能	着やすさ, 着せやすさ, 脱ぎやすさなどの着脱
風合い・肌触り	肌に触れたときの柔らかさなど, 触り心地
耐久性	洗濯や着用による劣化, 摩擦や引張りなどに対する強度

* 医薬品・食品研究課

表 2 調査用紙及び回答例

A	AはBよりも絶対的に重要	AはBよりもかなり重要	AはBよりも重要	AはBよりもやや重要	AとBは同じくらい重要	BはAよりもやや重要	BはAよりも重要	BはAよりもかなり重要	BはAよりも絶対的に重要	B
外観・デザイン						○				取り扱い性
取り扱い性						○				生理的機能
生理的機能					○					医療衛生的機能
医療衛生的機能						○				着脱性能
着脱性能				○						風合い・肌触り
風合い・肌触り				○						耐久性

出し、表 1 のとおり定義した。評価基準の回答は、一対比較法により評価基準のすべての対 (21 項目) に対して、9 段階 (絶対的に重要、かなり重要、重要、やや重要、同じくらい重要) で評価させた。調査用紙及び回答結果の一部を表 2 に示す。1 回の一対比較において、回答者は 9 段階のうち、当てはまる箇所に印を付け、回答する。

回答者は、作業療法士、看護師など医療福祉に関わる中間ユーザー 50 名 (男性 6 名、女性 44 名、年代別には、20 代 13 名、30 代 18 名、40 代 14 名、50 代 5 名) である。ここで、中間ユーザーとは、福祉用具を使用する一般ユーザー (直接ユーザー、エンドユーザー) に関わる看護師、療法士、ヘルパー、医師、家族等のことである。

3. 結果と考察

7 項目の寝衣に対する要求事項について 9 段階で評価させた結果について、「A は B よりも絶対的に重要」から「B は A よりも絶対的に重要」までの 9 段階を等間隔で 4 点から -4 点として評点を付け、それぞれの評価の平均評点を求めた。その結果を表 3 に示した。表 3 より、着脱性能は、外観・デザインよりも重要で、取り扱い性、耐久性、風合いよりもやや重要であり、生理的機能は、外観・デザインよりも重要で、取り扱い性よりもやや重要であり、風合い・肌触りと同じ程度重要であることがわかった。それぞれの項目の一対比較結果から、各評価基準の重要度を求め、図 1 に示した。ここでいう重要度とは評

表 3 要求事項の評価結果

A	B	外観・デザイン	取り扱い性	生理的機能	医療衛生的機能	着脱性能	風合い・肌触り	耐久性
外観・デザイン		-	-1.00	-1.86	-1.66	-2.18	-1.68	-0.98
取り扱い性			-	-0.96	-0.74	-1.26	-1.06	-0.60
生理的機能				-	0.44	-0.34	0.02	0.58
医療衛生的機能					-	-0.68	-0.30	0.18
着脱性能						-	0.78	1.16
風合い・肌触り							-	0.62
耐久性								-

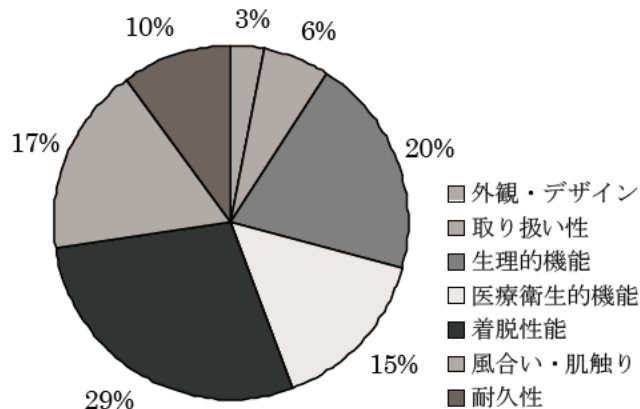


図 1 要求事項に対する重要度

価基準が重視される割合であり、評価結果の平均を平均の総和で除したものであり、重要度の総和は 100%となる。図 1 から、最も重視される基準は着脱性能であり、次いで、生理的機能、風合い・肌触りとなった。一般ユーザーでは寝衣の要求事項として風合い・肌触りが重視される⁴⁾が、中間ユーザーでは着脱性能が風合い・肌触りよりも重要視されるという結果となった。寝衣に対して中間ユーザーは着

脱性を重視することが明らかになったが、一方で、現行の福祉用衣類における着脱性能に問題意識をもっており、その性能の改善を期待しているものと推察される。

4. まとめ

医療福祉用繊維製品を開発するための基礎調査として、AHP を用いて中間ユーザーを対象に、病院、高齢者施設で用いられる寝衣に関する調査を行った。その結果、中間ユーザーの要求事項として、着脱性能、生理的機能が重視されることがわかった。

今後、数種類の寝衣を試作し、中間ユーザーを対象に、本調査で得られた重み付け（重要度）をもとに試作品の評価を行っていく予定である。

参考文献

- 1) 杉山和雄, 井上勝雄: “EXCEL による調査分析入門”. 海文堂. p119-128(2007)
- 2) 日本繊維製品消費科学会編: “繊維製品消費科学ハンドブック”. 光生館, pp2-7 (1975)
- 3) 中島利誠: “概説被服材料学”. 光生館. p94-96 (2001)
- 4) 吉田集而: “ねむり衣の文化誌”. 冬青社. p172 (2003)

(本研究は法人県民税の超過課税を財源としています)